



# Environment Report

環境報告書  
2013

国立大学法人

愛知教育大学

AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

# CONTENTS 目次

学長メッセージ	P 2
I. 大学の概要	P 3
II. 愛知教育大学憲章	P 5
III. 環境管理組織	P 6
IV. 環境目標・計画	P 7
V. 環境にかかわる教育・研究	P 8
完熟トマトプロジェクトと学校花壇 環境と人間 エコキャンパス・竹プロジェクト ユネスコスクールへの加盟と活動に向けて	
VI. 環境負荷とその低減のための取組	P 13
VI-I 環境負荷の状況	
マテリアルバランス 温室効果ガス排出量 総エネルギー投入量及びその低減対策 水資源投入量及びその低減対策 ごみ排出量 グリーン調達 環境会計情報 法令遵守状況	
VI-II 環境改善への取組	
省エネ対策取組状況経緯 東日本大震災発生以降の節電対策 「大学低炭素化への道」を考える特別講演会 PCB 廃棄物の管理・処理状況 環境情報開示・環境コミュニケーションの状況 生協店舗・食堂でのエコライフ提案	
VII. 活動紹介	P 31
VII-I 環境活動	
学生・教職員が一体となって実施した環境活動	
VII-II 社会貢献活動	
社会貢献活動	
VII-III その他社会的取組	
その他社会的取組	
VIII. 環境報告ガイドラインとの対照表	P 38
IX. 環境報告書の評価	P 39
X. 編集後記	P 40

## — 学長メッセージ —

# 更なるエコキャンパスの創造に向けて — 今、立ち止まって考えること —



国立大学法人 愛知教育大学学長 松田 正久

国立大学法人愛知教育大学環境報告書も、その発行が義務化されて8回目となります。関係職員の総意でこの報告書は発行されていますし、保健環境センターや財務部施設課を中心とした省エネの取組も着実に進んでいます。

私の学長としての最後の巻頭言となりますので、その思いを書き留めておきたいと思います。一つは、原子力発電の持つ社会システムの脆弱性と核廃棄物の問題です。政府や電力会社はこれまで、「原子力発電は、安価で環境にやさしいし、安全である」と喧伝し、全土に54基もの原発を設置した結果が、東日本大震災による福島第一原発の過酷事故でした。この事故は、住み慣れた家や土地を放棄し、数十年にわたり立ち入ることのできない広大な地を作り出しました。これは環境にやさしいどころか、環境破壊の最たるものといえますし、核廃棄物の管理費用や廃炉に要する費用などを加えれば、最も安価どころか高価なシステムといってよいでしょう。政府は、こうした、人類の叡智を持っても無害化できない核廃棄物を生み出す原発の再稼働を認め、さらには発展途上国への輸出を推進しようとしています。私は、一物理学徒として、経済優先のこうした動きを容認できません。特に核廃棄物の問題は、数10万年以上にわたり環境に放射能が漏れ出されないよう管理しなければいけませんし、これは不可能と言わざるを得ません。

宇宙物理学者の池内了氏は、これからの時代は、エネルギーを石油や天然ガス、ウラン等地下資源から太陽や風力、水力など様々な地上資源を利用する方向に転換しなければならないと主張されていますが、私もまったく同感です。地上資源は、風や天候任せで安定供給源にはなりにくいし高価で採算が取れない、何よりも需要に応えるだけのエネルギー源とはならないと主張する電力会社をはじめ政治家、技術者、研究者がいます。こうした人々の主張をうのみにすることなく、果たして本当だろうか、なぜ、どうしてと問いかける感性が必要ですし、自ら考え抜く力を持つ人間を育てるのが、本学が目指す教養教育です。

さて、最近では、「異常気象」の常態化といえる現象が顕著です。そのため夏は暑く、冬は寒い年になりつつあるようです。地球全体がそのシステムを狂い始めさせているのかもしれない。昨年は、そのせいもあり、対前年度比で電力量は1.04%増、電力コストは4.8%増の約1億円でした。日本が購入するLNGのコストは、アメリカの4～5倍と際立って高く、これも電力量の増加よりもコストの上昇率が高い原因かもしれません。昨年度比で、ガス使用量は、0.42%、コストは4.3%増、水道使用量も1.8%増加しています。すべてのエネルギー使用量の低減は、持続可能な社会を目指す上での目標です。今年度の電力使用量も昨年度比1%以上の削減を目標としています。夏の冷房の冷やし過ぎ、冬の暖房の温め過ぎに十分な注意をし、目標を達成したいものです。

2011年度から始まった特別経費による大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実としての「環境研究と環境教育の融合によるエコキャンパスづくり」の取組も、来年度が最終年度となります。その成果を皆さんと共有し、更なるステップに向けてジャンプしたいものです。

# I 大学の概要

## 大学の概要

### ● 報告対象期間、報告対象範囲

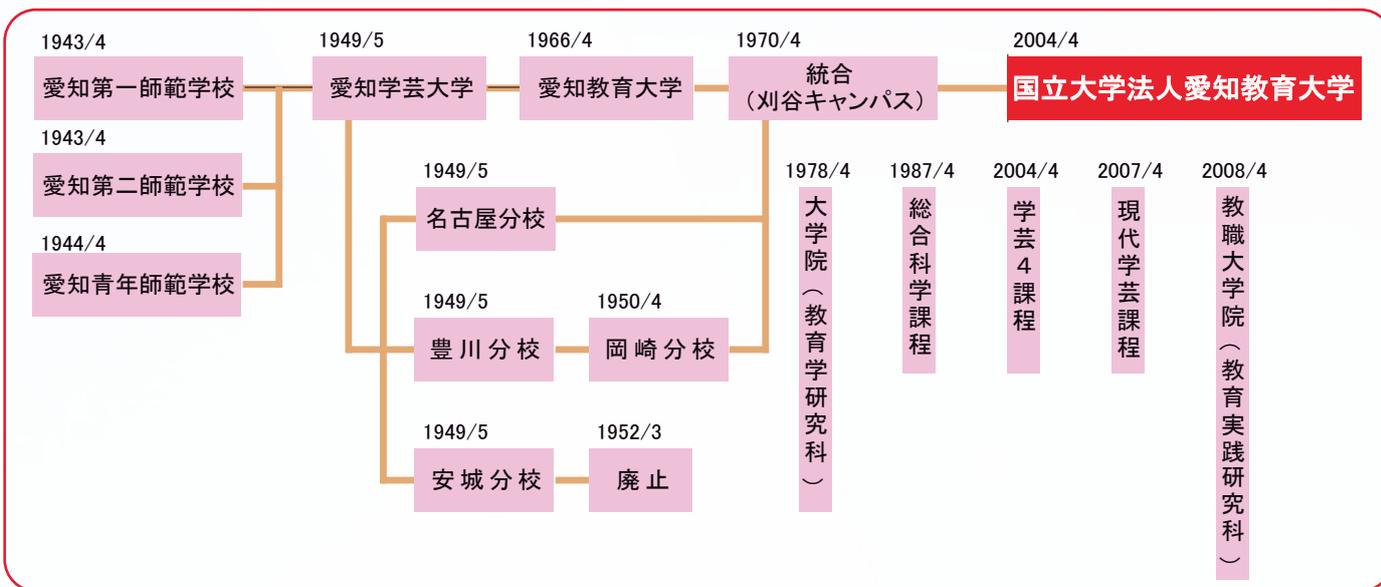
**報告対象期間** 2012年度（2012年4月1日～2013年3月31日）  
発行日（2013年9月30日予定）

**報告対象範囲** 井ヶ谷地区（大学・附属高校）  
名古屋地区（附属幼稚園・附属名古屋小学校・附属名古屋中学校）  
岡崎（六供）地区（附属岡崎小学校・附属特別支援学校）  
岡崎（明大寺）地区（附属岡崎中学校）

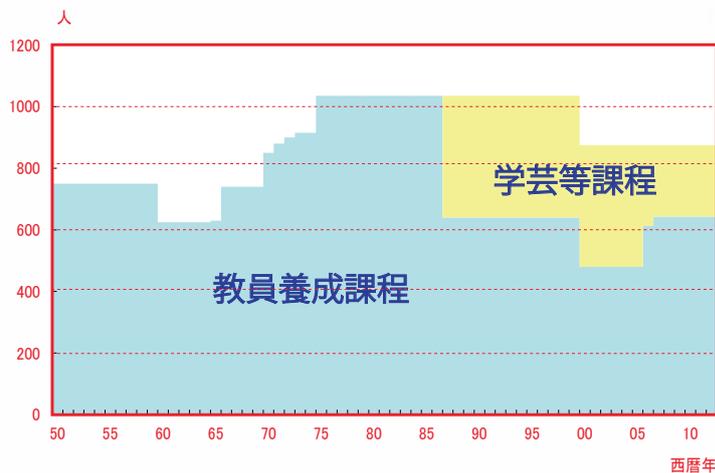
**作成部署及び連絡先** 保健環境センター（0566-26-2194）  
財務部施設課（0566-26-2152）  
E-mail（kankyo-h@m.auecc.aichi-edu.ac.jp）  
URL（<http://www.aichi-edu.ac.jp/intro/release/kankyoreport.html>）

**参考としたガイドライン** 環境報告ガイドライン（2012年版）  
環境会計ガイドライン（2005年版）

### ● 大学の沿革



### ● 学部入学定員の推移



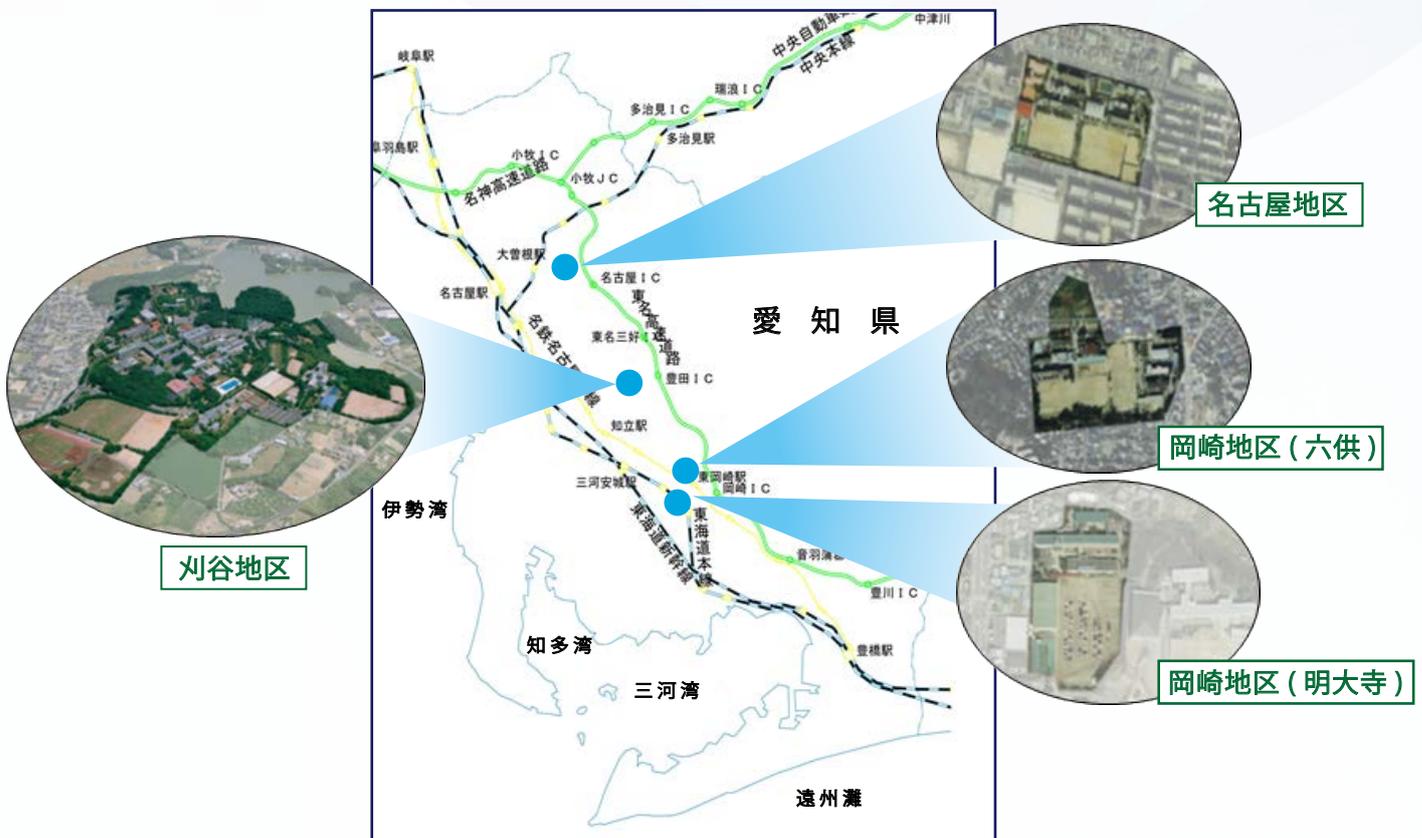
## 大学の概要

- 1) 大学名 国立大学法人 愛知教育大学
- 2) 所在地 〒448-8542 刈谷市井ヶ谷町広沢 1
- 3) キャンパス

地区	住所	土地	建物
刈谷地区	刈谷市井ヶ谷町広沢 1	488,136 m <sup>2</sup>	95,640 m <sup>2</sup>
名古屋地区	名古屋市東区大幸南 1 の 126	55,228 m <sup>2</sup>	15,714 m <sup>2</sup>
岡崎地区	岡崎市六供町八貫 15	64,348 m <sup>2</sup>	11,034 m <sup>2</sup>
	岡崎市明大寺町栗林 1	21,397 m <sup>2</sup>	6,546 m <sup>2</sup>
その他	研修施設等	9,696 m <sup>2</sup>	770 m <sup>2</sup>

### 4) 構成員

教職員	593 人
学部などの学生	3985 人
大学院学生	461 人
附属学校	3187 人
合計	8226 人



※航空写真出所：国土画像情報（カラー空中写真） 国土交通省より

# II 愛知教育大学憲章

## 愛知教育大学の理念

愛知教育大学は、学術の中心として、深く専門の学芸を教授研究するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する学問の府として、日本国憲法、教育基本法、ユネスコの高等教育に関する宣言等の理念を踏まえ、教育研究活動を通して世界の平和と人類の福祉及び文化と学術の発展に努めることが、普遍的使命であることを自覚し、愛知教育大学憲章を定める。

愛知教育大学は、学部及び大学院学生、大学教職員、附属学校教職員等を構成員とし、大学の自治の基本理念に基づき、大学における自律的運営が保障される高等教育機関として、また国により設置された国立大学として、その使命を果たすため、本学の教育目標と研究目標、教育研究及び運営のあり方を定め、これを広く社会に明らかにするものである。

## 愛知教育大学の教育目標

愛知教育大学は、平和で豊かな世界の実現に寄与しうる人間の教育をめざす。

学部教育においては教養教育を重視し、教員養成諸課程では多様な教員養成プログラムを通して、平和な未来を築く子どもたちの教育を担う優れた教員の養成をめざし、学芸諸課程では、社会の発展と文化の継承及び創造に貢献できる広い教養と深い専門的能力を持った多様な社会人の育成をめざす。

大学院教育においては学部教育を基礎に、学校教育に求められるさらに高度な能力を有する教員の養成をめざすとともに、諸科学の専門分野及び教育実践分野における理論と応用能力を備えた教育の専門家の育成をめざす。また、大学院を教員の再教育の場としても位置付け、教師教育の質的向上を図る。

## 愛知教育大学の研究目標

愛知教育大学は、教育諸科学をはじめ、人文、社会、自然、芸術、保健体育、家政、技術分野の諸科学及び教育実践分野において、科学的で創造性に富む優れた研究成果を生み出し、学術と文化の創造及び発展に貢献する。さらに、その成果を社会へ還元することを通して、人類の平和で豊かな未来の実現、自然と調和した持続可能な未来社会の実現に寄与する。

## 愛知教育大学の教育研究のあり方

### 1. 学問の自由と大学の自治

愛知教育大学は、自発的意思に基づく学術活動が、世界平和と持続可能な社会の形成に寄与することを期して、学問の自由を保障する。また、大学の自治が保障された自律的共同体として、教育が国民全体に責任を負って行われるべきであることを自覚し、不当な支配に服することなく、社会における創造的批判的機能を果たす。

### 2. 世界の平和と人類の福祉への貢献

愛知教育大学は、学術の基礎研究と応用研究をはじめ、未来を拓く新たな学際的分野にも積極的に取り組み、世界の平和と人類の福祉及び学術と文化の発展に貢献する。

### 3. 教師教育に関わる教育研究の推進

愛知教育大学は、広く人間発達に関わる諸学問と教育方法の結合を図りながら、教員養成や教員の再教育などの教師教育に関する実践的教育研究を行うとともに、教師の専門性と自律性の確立をめざした教育研究を推進する。

### 4. 国際交流の推進

愛知教育大学は、国内外の高等教育諸機関との連携や国際交流を推進し、留学生の積極的受け入れ及び派遣を通して、アジアをはじめ、世界の教育と文化的発展に貢献する。

### 5. 大学の社会に対する責任と貢献

愛知教育大学は、学外への情報公開及び広報活動を通して、社会に対する説明責任を果たし、学外からの声に恒常的に応え、社会に開かれた大学を実現する。また、教育界をはじめ広く社会と連携し、社会からの要請に応じて、教育研究の成果を還元し、社会の発展に貢献する。

## 愛知教育大学の運営のあり方

### 1. 大学の民主的運営

愛知教育大学は、全ての構成員が、それぞれの立場において、本学の目標を達成するため、大学の諸活動へ参画することを保障し、民主的運営を実現する。構成員は、大学の自治を発展させるための活動を相互に尊重するとともに全学的調和をめざす。

### 2. 学生参画の保障

愛知教育大学は、学生の学修活動を支援し、教育改善への学生参画を保障する。

### 3. 教育研究環境の整備充実

愛知教育大学は、豊かな自然環境を保全活用し、施設設備を含む教育研究環境の整備充実を図るとともに、障害者にもやさしい大学づくりを進める。

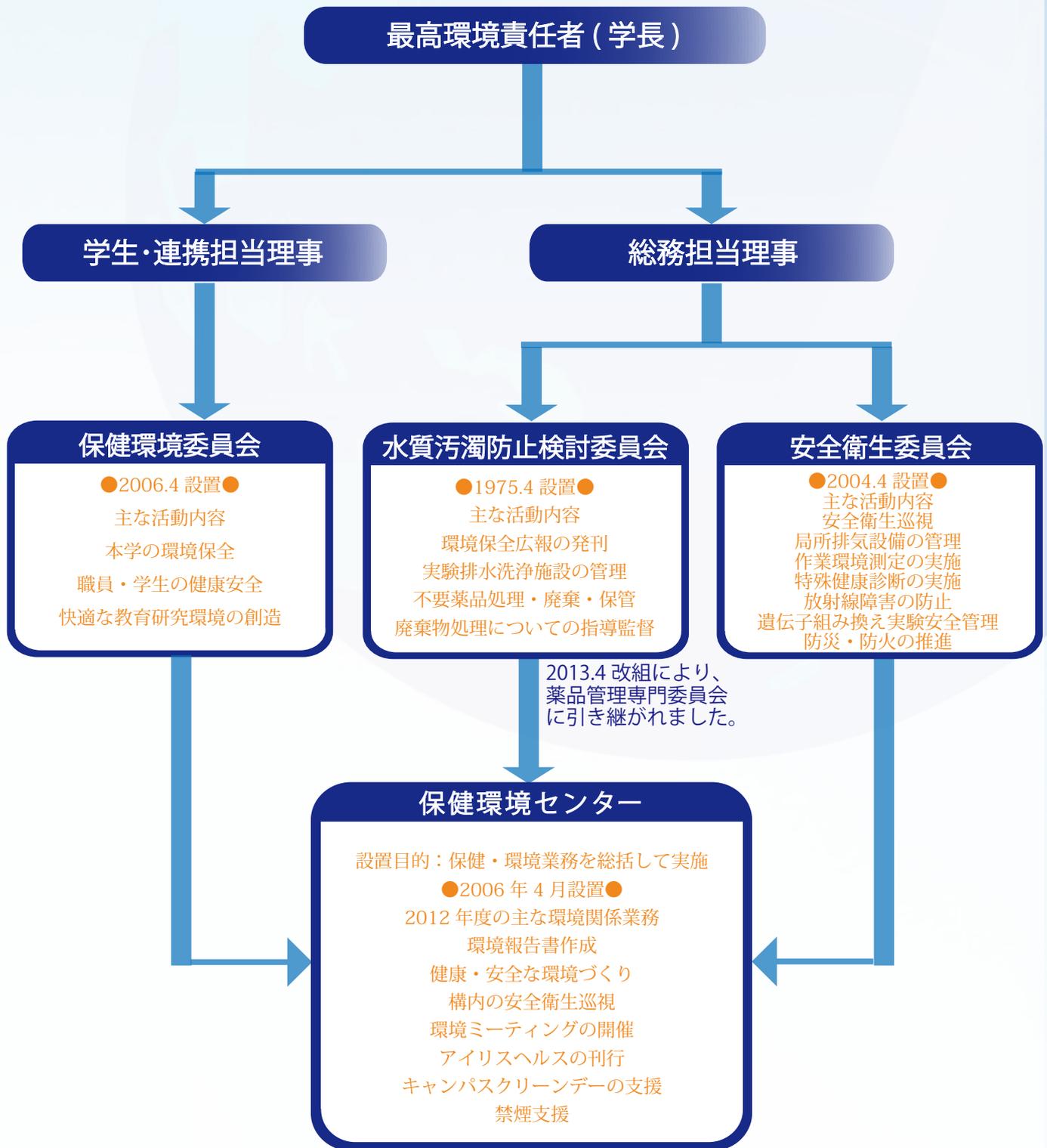
### 4. 自己点検評価と改善

愛知教育大学は、本学の教育目標と研究目標に照らして、恒常的な自己点検評価により、不断の改善に努める。

### 5. 人権の尊重

愛知教育大学は、全ての構成員が相互に基本的人権と両性の平等を尊重し、教育研究活動における、あらゆる差別や抑圧などの人権侵害のない大学を実現する。

# Ⅲ 環境管理組織



# IV 環境目標・計画

環境目標	環境配慮の計画項目
1. 全学を挙げての環境重視型大学を実現するための体制整備	<p><b>【環境保全】</b></p> <p>(1) 保健環境センターに環境データの集積を行う。</p> <p>(2) 環境保全について学生の参加を推進する。</p> <p>(3) 愛知教育大学温室効果ガス排出抑制のための実施計画を作成する。</p> <p><b>【省資源】</b></p> <p>(1) 共用できるものは情報交換をして再利用する。</p> <p><b>【省エネルギー】</b></p> <p>(1) 省エネルギーについてのキャンペーンを実施し組織的な省エネルギーを進める。</p> <p>(2) 夏期一斉休業を実施する。</p> <p><b>【労働安全衛生】</b></p> <p>(1) 勤務時間後の早期退庁を進める。</p> <p>(2) 高圧ガス保安規程を作成し学内の高圧ガス安全管理を図る。</p>
2. 教育大学としての特徴を生かした環境に関する教育研究の推進	<p><b>【教育・研究】</b></p> <p>(1) 大学・大学院における環境教育の現状を把握し、その推進をはかる。</p> <p>(2) 大学・大学院における環境に関する研究の現状を把握し、その推進をはかる。</p> <p>(3) 附属学校園と連携した環境教育プログラムを推進する。</p>
豊かな自然環境を保全活用した環境負荷の少ないキャンパスづくり	<p><b>【環境保全】</b></p> <p>(1) 実験排水の量、使用薬品名、経路を確定し台帳化の準備をする。</p> <p>(2) 学校環境衛生基準を満たす環境を確保する。</p> <p>(3) アスベスト含有製品の破損とアスベスト含有粉塵の飛散の防止する。</p> <p><b>【省資源】</b></p> <p>(1) 用紙の両面使用及び裏紙活用を推進する。</p> <p>(2) プール等大量に水を使う施設の維持管理を強化する。</p> <p><b>【省エネルギー】</b></p> <p>(1) 給水量、排水量を把握する。</p> <p>(2) 不在箇所の暖房のバルブを閉止する。</p> <p>(3) 講義室、廊下など人感センサーによる照明コントロールを推進する。</p> <p>(4) クールビズ、ウォームビズを活用する。</p> <p>(5) 昼休みの消灯、事務機器の off 励行。不使用機器のコンセントから抜く。</p> <p>(6) 節電推進シールを貼る。</p> <p>(7) 自然エネルギーの積極的な活用。</p> <p><b>【労働安全衛生】</b></p> <p>(1) 産業医、衛生管理者の巡視結果を活用し事故を未然に防ぐ。</p> <p>(2) 労働災害や学生の事故の原因解明のためのチェックリストを活用し災害等の予防をする。</p> <p>(3) 救命救急（AED 取り扱い）講習会を開催する。</p> <p>(4) VDT 作業環境を改善する。</p> <p>(5) 有害化学物質等への曝露防止対策を進める。</p> <p>(6) 衛生管理者のための講習会を開催し、巡視用チェックリストの改善を進める。</p> <p><b>【化学物質管理】</b></p> <p>(1) 毒物・劇物の保管状況調査を実施する。</p> <p>(2) 有害化学物質・製品の使用状況を法規制対象外も含めて調査する。</p> <p>(3) 有害物を使う教職員・学生用の安全衛生マニュアルを作成する。</p> <p>(4) 危険・有害性の少ない試薬等への代替を促進する。</p> <p>(5) 薬品等の管理のあり方を検討する。</p> <p><b>【防災】</b></p> <p>(1) 耐震等の工事における安全衛生と環境配慮の推進。</p> <p><b>【屋外環境】</b></p> <p>(1) 壁面緑化により省エネルギーと温室効果ガスの削減をおこなう。</p> <p>(2) 美しい教育研究環境の維持のためキャンパスクリーンデーを実施する。</p> <p>(3) 指定場所以外での禁煙を強化する。</p> <p>(4) 学生等ボランティアによる清掃活動を支援する。</p> <p>(5) 破損箇所は直ちに修理する。</p> <p>(6) 校舎中庭へのバイク乗り入れ禁止を徹底する。</p> <p><b>【リサイクル】</b></p> <p>(1) 不要になった自転車をリサイクルし活用する。</p> <p>(2) 新聞、雑誌以外のリサイクル可能な紙を区分収集しゴミ減量と省資源を徹底する。</p> <p>(3) 環境リサイクル市を支援する。</p> <p><b>【温室効果ガスの削減】</b></p> <p>(1) 退庁時のチェックシートを作成し、電源オフ、防犯などを徹底する。</p> <p>(2) アイドリングストップを周知する。</p> <p>(3) マイカー通勤・通学の削減に努める。</p> <p>(4) 真空断熱ガラス及び太陽光発電の検証を行う。</p> <p><b>【廃棄物】</b></p> <p>(1) ゴミの減量化に努める。</p> <p>(2) 一般ゴミの分別表示と廃棄ルールを明確化する。</p> <p>(3) 環境保全の良い事例の写真展を行う。</p> <p>(4) 教育研究系廃棄物の適正処分の推進と安全管理を徹底する。</p> <p>(5) 物品納入業者の梱包材引き取りを徹底する。</p>

# V環境に関する教育・研究

## 完熟トマトプロジェクトと学校花壇

愛知教育大学名誉教授 市橋正一

愛教大生対象の植物の栽培経験に関する実態調査では、アサガオ、インゲン、トマトの栽培経験がトップ3なのですが、これは小学校でアサガオを教材として栽培し、翌年その土を利用してトマトを栽培する機会が多いためと考えられます。サヤインゲンも栽培しやすく収穫が容易で、理科教材として使いやすいため、学校で接する機会が多かったためと考えられます。

筆者は「エコキャンパスプロジェクト」の一環で、トマトの袋栽培を教材に取り入れています。買った袋入りの培養土をそのまま使って、その袋の中にトマトを植える栽培方法です。これを教材に取り入れているのは、教員になろうとする皆さんに、簡単な方法でもまともな栽培が可能であることを知り、美味しいトマトを実際に収穫し、その喜びを知ってもらいたいと考えているからです。

トマトでもアサガオでも、またどんな植物も、土と水があって、栽培管理のちょっとしたコツさえ掴めば、栽培は難しいものではありません。畑とか花壇での栽培は、大地が栽培管理の一部を分担してくれるので、基本的なことさえわかれば、誰にでも栽培できます。

これに比べ、鉢とか容器、あるいは袋での栽培は確実に灌水管理ができないと、うまく栽培できません。トマトの袋栽培が上手くできた経験があれば、それは学校の緑化活動にも応用ができ、緑化の取り組みが行いやすくなると考えられます。

一般的な植物の育てやすさは、葉菜類、花、果菜類の順になります。これは生育期間によるもので、果実の収穫は植物の生育の最後になるので、そこまでにたどり着くには、多くの障害に遭遇しそれを乗り越えなければなりません。ごちゃごちゃ書きましたが、要するに鉢(容器、袋)でトマトが栽培できれば、ほとんどのものは栽培できると思います。

袋栽培のメリットは、栽培に適した良い土が使える、場所の制約が少ない、鉢とか畑がいらぬ、軒下などで栽培できるなどです。デメリットは、土を購入しなければならない、定期的な水やりが必須、植物を固定するのに工夫が必要、などです。特に、毎日の水やりが必須なのですが、自動化すればそんなに問題はありません。これもちょっと資金がいるのですが、ホームセンターの園芸用灌水コーナーに行けば、自動化に必要なパーツは全部そろいます。こんな方法で、超美味いトマト栽培「完熟トマトプロジェクト」に取り組んでもらっています。

自動灌水と容器栽培のノウハウを利用すれば、花壇利用による学校園緑化の可能性は大幅に広がります。最近、公園とか観光地に、トレーに入れたポット苗を並べただけの花壇がありますが、これは最も簡単な花壇作りです。ポット栽培した草花を、花が咲いたら適当に並べれば花壇は完成です。花壇の設計は、エクセルでシュミレーションすれば、これもかんたんです。正方形のセルに色を付けて、配色を考えてマトリックスに並べれば、それで花壇の図面は完成します。容器で上手く栽培でき、灌水が自動化できれば、素晴らしい学校花壇の制作も全く問題はありません。



トマトの雨除け袋栽培 水を制限して育てるので、最高に美味いトマトが収穫できます。



ポット苗花壇 花壇の植え付け前の状態です。これを拡大移動して花壇に植え付けます。灌水を確実に行えば、このままの状態の花壇になります。

「環境と人間(入門)」の授業は、全15回を数人の教員で担当する授業で、近藤裕幸准教授の担当する3回の授業目的は、「環境の学習を通して、自分の目でしっかりと確かめ、皆で協力して考え、発信する力を身につけること」にあり、自分だけで学びを完結するのではなく、それをいかにして伝えるかを大切に運営されています。

第1回は「まわりをよくみよう」です。まず次の指示を学生に出します。「愛教大は自然豊かな場所です。ふだん皆さんは学内でたくさんの『木』を目にしていると思います。では、その『木』を思い出して、できるだけ細かく木の絵を描いてください」という指示を出します。そうすると学生たちは一生懸命に思い出しながら木を描きます。しかしたいの学生は細かいところを思い出せません。次に、外にいった実際にみながら木の絵を描いてもらいます。当然今度は細かなところまで描くことができます。この回で大切なことは「ふだん見ているつもりでも意識してみないと、何もみていないことと同じ」ということをわかってもらうことです。環境問題は、自分たちの周りを見つめ直すことから始めるべきというメッセージが込められています。環境ということばが上滑りしないことを期待しているわけです。

第2回は、「子どものための安全マップをつくることで、愛教大の環境を見直す」というグループ活動です。設定は「昼間、小学4年生のごろうさんとまみさんが愛教大に遊びに来ます(こどもまつり)。こどもが注意したほうがよいという場所をチェックし、安全マップをつくりましょう」です。大学の敷地を10区画にわけて危ないところや犯罪が起きやすいと推測されるところを地図に記入します。1グループが1区画を担当します(10枚つなげると大学全体の地図になります)。具体的なチェックポイントは、こどもがつい入ってしまいそうな場所、見えにくい場所、子どもが立ち寄ると危険な場所、転びやすい場所、見通しの悪い交差点、何かあったら助けを求められるところ、子どもにもわかるように建物の名前も記入する等です。着色して鮮やかな地図を作ります。

第3回は完成した安全マップを発表してもらいます。この時のポイントは、小学生に語りかけるようにやる、一方的に発表するのではなく相手の反応を確かめながらやることです。相手に伝わってこそその知識や情報です。相手は小学生(大学生が小学生になる)ですから、話しことばも親しみやすくやさしいことばでなければいけません。学生たちは笑顔を絶やさず、おもしろく話します。時にはオリジナルなキャラクターを登場させたり、寸劇を行ったりとても楽しい発表になります。

週に1度しか顔を合わすことのない学生が、「自然も環境、周りにある建物やいろいろなモノも環境です。自分の周りにはいる人々も、周りにはいるという意味では環境です。当然、自分自身も環境の一部であり、その環境をよくするのも悪くするのも自分しだいです。どうぞ自分のまわりにいい環境をつくってください。自分が学ぶだけじゃなくて、考えて、伝えて、作ってってください。」という教員からのメッセージを胸に、環境の問題とみんなで楽しくかかわることの大切さを学んでいきます。



授業の様子

## エコキャンパス・竹プロジェクト

創造科学系美術教育講座彫刻研究室 宇納一公（特別教授）

環境に配慮したECOキャンパス事業として竹プロジェクトは、快適性、経済性、教育効果を考えています。自然から学ぶ機会として、大学内に広がる荒廃した竹林と雑木林の再生を目指し、造形活動を通して自然素材の有効利用の方法と循環型再生可能システムの構築を目指しています。おもに彫刻研究室のスタッフが中心となって様々な試みをしています。以下その一例を報告させていただきます。

### 1. 竹カフェについて 2012年5月初旬

竹カフェとは、竹製オブジェの中で飲み物やお茶菓子を食事ができたらどのように感じるのだろうか、という所からスタートしました。カフェを運営する日を大学内外の人が集まる大学祭に合わせ、たくさんの人々に向けてアピールできるようにしました。およそ400人がお客さんとして来店し、それぞれが好きな竹のオブジェの中でコーヒーなどを飲みながらくつろぎました。お客さんの声としては、「涼しげな雰囲気よかった」「落ち着く」「またやってほしい」などの好意的なものも多く、リピーターや知り合いに声をかけるなどしてさらにお客さんが増えていました。大学祭が終わった後もしばらくの間オブジェはそのまま設置して様子を観察していましたが、お昼休みには学生や事務の人などの憩いのスペースとして活用されていました。

### 2. 竹の憩い広場 2013年5月初旬

竹でできた建物が立ち並ぶ、「竹の憩い広場」が大学祭の日から美術第一実習棟の前に出現しました。メンバーはチームごとに、気軽に休憩できる場所を目指して、建物やベンチを制作しました。白川郷を模した建物やドーム状の建物、竹でできた椅子、竹で染めたクッションを置いたベンチなどを設置しました。中には、来られた人の癒しや疲れを取ることを目的に、ロウソクを使った竹のあかりや池の上を歩く橋や青竹踏みのようなものもあり、一ヶ月間みなさんに竹の作品を楽しんでいただきました。

### 3. 七夕ロード 2011、2012、2013年 7月初旬

第一共通講義棟北側の連絡通路を利用した竹による七夕ロードは、初夏の季節感を演出することを目的に制作されました。最初の年は美術の学生が中心となり翌年からは主として図画工作科研究A1の受講学生が課題として制作したものを設営しました。学生には竹プロジェクトの存在を知ってもらうとともに、竹の加工技術の習得と大学内の荒廃した竹林の存在を知る機会となっています。

### 4. 立ち枯れ材の伐採 随時

不要となった竹材の再利用のために、竹炭の製造と活用方法や、竹チップによる雑草防除散布、堆肥化などを実践しています。



竹製オブジェ



竹カフェ

## ユネスコスクールへの加盟と活動に向けて

国際交流センター長 宮川秀俊

愛知教育大学は、2012年1月に我が国の高等教育機関の組織であるユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet：Associated Schools Project University Network）に、第17番目の大学として加盟しました。このASPUnivNetの加盟校は、(1) ユネスコスクールへの加盟（申請や活動）の支援、(2) 大学の持つ知的資源のユネスコスクールの活動への提供、(3) 国内外のユネスコスクールとのネットワーク作りの支援、(4) 地域の教育機関とユネスコスクールとの連携の促進、等を行います。

ユネスコスクールとは、ご承知のように、ユネスコ憲章に示されたことを実現するために、平和や国際的な連携を実践する学校のことで、世界180以上の国・地域に9000校以上の加盟校があります。我が国の文部科学省および日本ユネスコ国内委員会は、このユネスコスクールをESD（Education for Sustainable Development：持続発展教育）の推進拠点として位置づけ、その加盟校増加に取り組んでいます。2013年6月には、我が国のユネスコスクール加盟校は578校となっています。

さて、愛知県・名古屋市では2014年11月に、「持続発展教育に関するユネスコ世界会議」が開催されますが、これに向けて、愛知県はユネスコスクール加盟校を当初50校を目標としてまいりました。本学の上記ASPUnivNet加盟後の支援により、目標値を達成することが現実のものとなりました。これには、本学の8名のユネスコスクール加盟・活動支援教員の協力の賜と感謝しています。もちろん、申請の数だけではなく、本学独自の加盟に向けた申請書の書式と共に、そしてそれぞれの申請書については、支援教員の的確な指導により、ユネスコスクールとしての充実した内容が備わっています。これらのことが、加盟校の順調な増加に功を奏していると思います。

これまで本学は、2014年度に向けて、2012年2月に「ユネスコスクール・AUE・キックオフシンポジウム」を開催し、その後8月には愛知県下のユネスコスクール加盟に向けた研修会を名古屋市と豊橋市で（写真1）、また、2013年1月にはユネスコスクール交流会（写真2）を、愛知県教育委員会と名古屋市教育委員会の協力により実施しました（写真3）。さらに、2012年11月と12月には、名古屋市と豊橋市で開催された愛知県主催の「2014年ユネスコ世界会議に向けたキックオフセミナー」に参加しました（写真4）。

現在、本学では、附属幼稚園と附属名古屋小学校、大学がユネスコスクールに加盟しています。そして、附属名古屋中学校、附属岡崎小学校、附属岡崎中学校が申請中で、近いうちに加盟が認められると思います。次の段階として、附属高校、附属特別支援学校が申請を予定されています。ユネスコスクール加盟後には、是非みなさまのご支援をお願いいたします。



名古屋市



豊橋市



ユネスコスクール加盟の研修会の様子



ユネスコスクール交流会の様子



2012年度の報告書の表紙



キックオフ・セレモニーの風景

# IV 環境負荷とその低減のための取組

## VI - I 環境負荷の状況

### マテリアルバランス

本学では、事業活動（教育・研究）に伴って発生する環境負荷を正しく把握し、その削減活動を推進するためにデータ収集・分析を行い環境負荷の低減に向けて努力いたします。



## 温室効果ガス排出量

### 2012 年度温室効果ガス排出量

使用エネルギー	年間使用量	二酸化炭素 (CO <sub>2</sub> )		メタン (CH <sub>4</sub> )		一酸化二窒素 (N <sub>2</sub> O)	
		排出係数	排出量	排出係数	排出量	排出係数	排出量
電 気	5,778,514	0.518	2,993,270				
都市ガス	209,282	2.23	466,698				
A 重油	84,929	2.71	230,158				
下水処理量	66,470			0.0055	366		
一般廃棄物排出量	69,030			0.00000095	0.1	0.0000567	4
合 計			3,690,126		366		4

(注) 下水処理量は刈谷地区のみ。2011 年度より井水設備を導入し、逆洗等の排水も含まれます。

### 二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) 排出量経年比較

環境報告書	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
温室効果ガス排出量 (kg)	5,000,119	4,555,066	4,673,678	4,403,860	3,850,044	3,654,541	3,493,294	3,690,126
対前年度比	—	-8.9%	2.6%	-5.8%	-12.6%	-5.1%	-4.4%	5.6%
2005 年度との比較	—	-8.9%	-6.5%	-11.9%	-23.0%	-26.9%	-30.1%	-26.2%

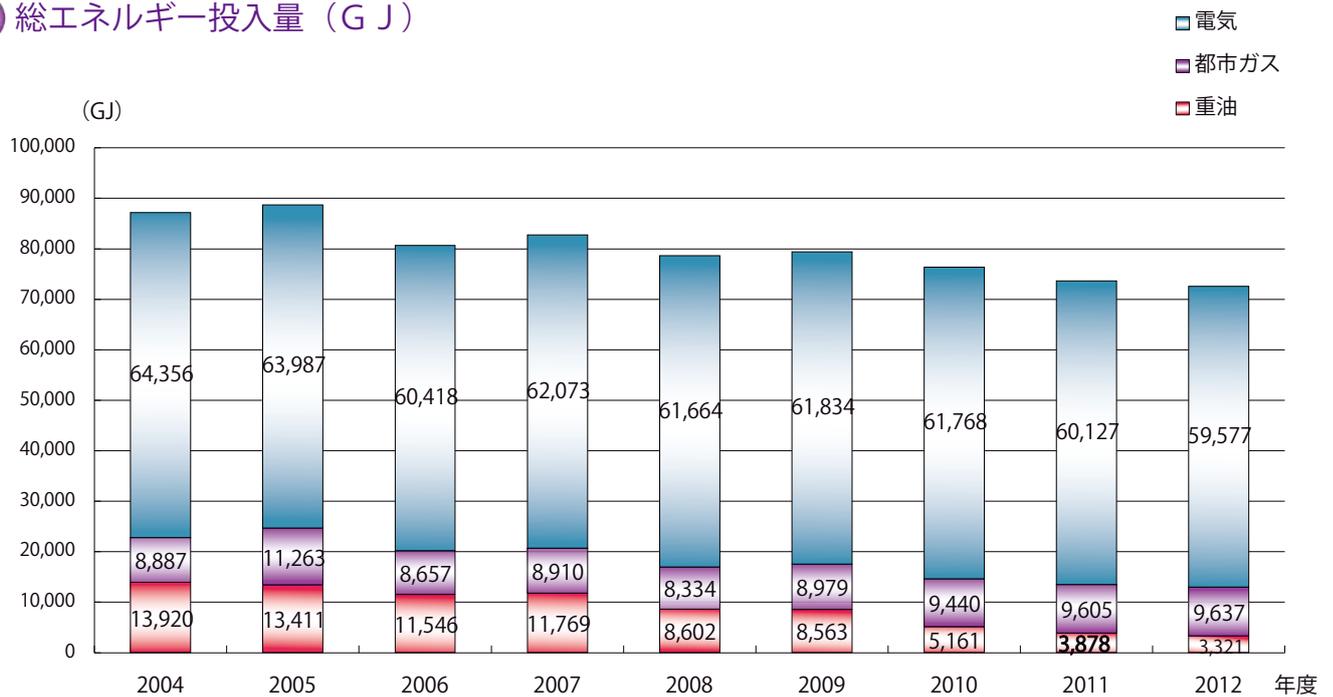
2005 年度から比較して 2012 年度では、-26.2%をまた対前年度比では、5.6%の増加となりました。要因は、電気の換算係数が前年度より増となったことで、前年度の換算係数で計算した場合、全体の CO<sub>2</sub> 排出量は、対前年度比 -1.8%となります。

### 温室効果ガス排出削減目標

第 2 期中期目標・中期計画の中で、施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置として、「環境報告書に温室効果ガスの削減目標を記載し、その達成に向けて自然エネルギーの活用等全学的な省エネルギー化を進める。」とし年度計画にて「温室効果ガスの排出量を対前年度比 1%削減する。」としています。

# 総エネルギー投入量及びその低減対策

## 総エネルギー投入量 (GJ)



本学の過去9カ年の総エネルギー投入量 (GJ) を検証すると、2005年度に最も多くのエネルギーを消費し、その後は増えたり減ったりを繰り返していました。2010年度からは年々減少し、2012年度は、全構成員が今まで以上の省エネ意識を持ち活動を行った結果、過去最も少ない総エネルギー投入量に抑えることができたことは、大きな成果だと思います。

## エネルギー使用量



5,976 千 kWh の内 197 千 kWh は太陽光発電による自然エネルギーです。



## 水資源投入量及びその低減対策

### 水資源投入量低減状況



年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
投入量(市水)(m <sup>3</sup> )	194,781	186,547	163,103	149,460	151,828	145,452	121,512	87,501	58,140
投入量(井水)(m <sup>3</sup> )	—	—	—	—	—	—	—	36,430	65,057
投入量計(m <sup>3</sup> )	194,781	186,547	163,103	149,460	151,828	145,452	121,512	123,931	123,197
対前年度差(m <sup>3</sup> )		-8,234	-23,444	-13,643	2,368	-6,376	-23,940	2,419	-734
対前年度比(%)		-4.2%	-12.6%	-8.4%	1.6%	-4.2%	-16.5%	2.0%	-0.6%

#### <低減対策>

本学の給水使用量は、便所等の節水対策工事や節水啓発活動で年々減少傾向にありました。しかし、2008年度にプール使用の増加やグラウンドの漏水などの影響で、増加に転じました。その後、さらなる節水対策や、漏水監視のため、メーター設置を細分化させ迅速な対応を心掛けました結果、2010年度はかなりの減少を達成しました。2012年度の使用量については、2011年度と比較して若干減少しました。また、2011年8月から導入した「地下水浄化設備」により市水換算で8,444千円の削減効果がありました。

## ごみ排出量

### ● 廃棄物排出状況

#### ・大学からの廃棄物

廃棄物区分		分類等	数量	単位
事業系	一般廃棄物	可燃物	76,400	Kg
		木くず	1,540	Kg
	産業廃棄物 (普通)	廃プラスチック類	3,480	Kg
		金属くず類	3,150	Kg
		ガラス類	6,850	Kg
		石こう・陶磁器類	6,620	Kg
		廃蛍光管類	281	Kg
		混合物(粗大ごみ)	272	m <sup>3</sup>
		廃家電4品(エアコン、テレビ、冷蔵庫、洗濯機)	56	台
		汚泥	30.8	Kg
		廃酸	19.3	リットル
		廃油	112.3	リットル
	リサイクル	紙ごみ	4,280	Kg
		古紙	12,560	Kg
		機密文書	13,660	Kg
産業廃棄物 (特別管理)	重金属系薬品、重金属の含有した汚泥	3.7	Kg	
	pH12.5以上の廃アルカリ	10.8	リットル	
	pH2.0以下の廃酸	10.0	リットル	
	廃油(有機塩素化合物等)	1.0	リットル	
		引火性廃油	651.8	リットル

※廃棄物は分別回収を行い、ごみの減量化対策を行っています、またリサイクル率を毎年増加させるように推進しています。

#### ・大学内建設工事関連による廃棄物

廃棄物区分	分類等	数量	単位	数量	単位
安定型品目	コンクリートがら	581.9	t	45.8	m <sup>3</sup>
	アスファルトがら等	14.0	t	0.3	m <sup>3</sup>
	その他がれき類	8.0	t	32.5	m <sup>3</sup>
	ガラス・陶磁器くず	0.06	t	18.5	m <sup>3</sup>
	廃プラスチック	0.7	t	53.5	m <sup>3</sup>
	金属くず	15.3	t	14.3	m <sup>3</sup>
	混合物		t	65.0	m <sup>3</sup>
	石綿含有産廃	3.9	t	8.9	m <sup>3</sup>
管理型品目	紙くず	1.1	t	18.0	m <sup>3</sup>
	木くず	16.0	t	67.6	m <sup>3</sup>
	繊維くず		t	4.0	m <sup>3</sup>
	廃石こうボード		t	24.2	m <sup>3</sup>
	混合物		t	94.6	m <sup>3</sup>
	石綿含有産廃		t	10.0	m <sup>3</sup>
	廃石綿等		t	14.0	m <sup>3</sup>

※工事にて発生した廃棄物もマニフェストにより、適切に管理しています。

## ごみ排出量低減対策

### 1) ごみ排出量



2008年度から「紙ごみリサイクルボックス」を設置しました。しかし、主な廃棄物の排出量は、近年ほぼ横ばいの状況で推移しており、増加傾向にならないよう注意するとともに、今後は更に分別の浸透理解を促していきたいと考えます。



本学は教育大学のため、美術系の講座も設置されています。そのため、金属くず、ガラスくず、木くず等の排出が比較的多くあります。それぞれ分別したうえで排出し、最終的に金属原料、ガラス原料等になり、木くずは製紙原料や補助燃料として利用されています。



粗大ごみの排出量は、倉庫に一時保管するなど、必要に応じて処分しているため、年ごとの排出量にばらつきが生じています。



廃蛍光管の排出量は、蛍光管の寿命に大きく影響をされます。蛍光管の寿命は約4、5年であり、廃蛍光管の排出量もそのサイクルで増減すると推測されます。2012年度は、その影響により排出量が減少したものとされます。

### 2) 低減対策等

発生抑制（リデュース）、製品及び部品の再利用（リユース）、再生利用（マテリアルリサイクル）、熱回収（サーマルリサイクル）を基本的な方針として対策を行っています。主な対策事例として下記のような取り組みを行っています。

- ①紙ごみについては、古紙（売り払い）、雑古紙、機密文書・廃棄図書の種類に区分し、紙の状況及び性質に応じて排出リサイクルされます。また、学内においては、紙媒体にプリントアウトする場合は、両面印刷、集約印刷及び裏紙使用を推進し省資源化に努めています。
- ②ペットボトル、カン類及びビン類は、リサイクルのために分別したうえで排出しています。
- ③粗大ゴミは排出前に倉庫に一時保管し、物の状態に応じてリユースをしています。また廃棄物の適切な処理の促進に関する条例（愛知県）に基づき、法律遵守の観点から排出者の義務として、適宜、処分場において実地確認をしています。
- ④廃棄する蛍光管類は一カ所に集積したうえで排出し、最終的に水銀、ガラス原料としてリサイクルされます。

## グリーン調達

### グリーン購入の推進状況

#### ◇ グリーン調達の目標

環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）に基づき、環境負荷の低減に資する製品等の調達の推進方針を策定し、調達率100パーセントを目標としています。

#### ◇ グリーン調達の状況

本学のグリーン購入法による環境負荷低減の製品・サービスなど(特定調達品目)は、18分野250品目となり、主な分野の調達量・達成率は、以下のとおりです。達成率は、すべて100パーセントになりました。今後もグリーン調達を推進していきます。

### グリーン調達の実績（主要品目抜粋）

分野	品目	全調達量	特定調達品目 調達量	調達率
紙類	コピー用紙	38,708.3 kg	38,708.3 kg	100 %
	トイレットペーパー	7,394.0 kg	7,394.0 kg	100 %
文具類	ファイル	13,533 冊	13,533 冊	100 %
	事務用封筒（紙製）	103,457 枚	103,457 枚	100 %
オフィス家具等	いす	401 脚	401 脚	100 %
	机	125 台	125 台	100 %
OA機器	パーソナルコンピュータ	476 台	476 台	100 %
	スキャナ	43 台	43 台	100 %
照明	器具(Hf インバータ方式)	938 台	938 台	100 %
	蛍光灯 (高周波点灯専用型Hf)	611 本	611 本	100 %
インテリア・ 真装身具	カーテン	79 枚	79 枚	100 %
役 務	印刷	274 件	274 件	100 %

## 環境会計情報

愛知教育大学の環境保全活動における主な取組について、環境会計ガイドライン 2005 年版の分類を参考に集計しました。

本学が、平成 23 年度に環境負荷削減や環境配慮の取組みにより、投入した環境保全コストは約 65,524 千円でした。ただし環境会計を導入していないため、財務会計システムから該当箇所を抽出し集計したものです。

### 環境保全コスト（事業活動に応じた分類）

分類	主な取組の内容	コスト額（千円）					
		2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	
(1) 事業エリア内コスト		28,967	35,068	23,779	21,773	33,183	
内 訳	公害防止コスト	大気汚染防止、水質汚濁防止、土壌汚染防止等	14,868	11,284	8,669	5,278	9,167
	地球環境保全コスト	省エネルギーの取組、温室効果ガス削減の取組等	1,877	2,020	645	194	478
	資源循環コスト	廃棄物分別処理、リサイクル処理等	12,222	21,764	14,465	16,301	23,538
(2) 管理活動コスト	自然保護、緑化、美化、景観保護等の環境改善対策	37,087	26,304	17,263	29,177	25,097	
(3) 環境損傷対応コスト	汚染負荷量賦課金等	71	73	75	67	54	
(4) その他環境コスト		3,607	3,862	5,903	5,755	7,244	
合 計		69,732	65,307	47,020	56,772	65,524	

### 環境保全効果

分類	環境パフォーマンス指標	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	前年度比
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	総エネルギー投入量（GJ）	78,600	79,376	76,401	73,610	72,535	-1.5%
	水資源投入量（m <sup>3</sup> ）	151,828	145,452	121,512	123,931	123,197	-0.6%
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する環境保全効果	温室効果ガス排出量（t-CO <sub>2</sub> ）	4,404	3,850	3,655	3,493	3,690	5.6%
	総排水量（m <sup>3</sup> ）	56,774	52,144	44,840	76,213	66,470	-12.8%
	水質 BOD（mg/L）平均値	18.2	9.1	6.6	6.8	3.8	
	水質 COD（mg/L）平均値	3.6	5.6	8.1	6.3	8.8	

### 環境保全効果に伴う経済効果

分類	効果の内容	金額（千円）				
		2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
費用削減	省エネルギー対策によるエネルギー費の削減	7,379	9,243	4,123	5,560	2,684

## 法令遵守状況

### 法令遵守状況

法令	大学の体制・規程等	大学の具体的な対応（例）
<b>【環境】</b> 環境配慮促進法 環境配慮契約法 地球温暖化対策の促進に関する法律	保健環境委員会規程 保健環境センター規程	環境報告書の作成・公表 環境報告書ダイジェスト版の作成 保健環境センターを中心とする環境活動の実施
<b>【水質】</b> 水質汚濁防止法 下水道法	井ヶ谷区下水道へ移行予定 水質汚濁防止検討委員会規程 名古屋・岡崎地区 下水道法	窒素及びリンの測定（井ヶ谷地区）毎週 CODの測定（UV相関により）毎日実施 BOD 毎月測定 下水道接続への準備作業実施
<b>【大気】</b> 大気汚染防止法		ばい煙測定（Nox・Sox・ばい煙等） 大学ボイラー廃止による、規制総量値の変更届出 GHP・EHPへ移行
<b>【騒音・振動】</b> 騒音・振動規制法		GHP・EHPの大型機器の届出 建設工事時に低騒音型重機の使用
<b>【廃棄物】</b> 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 PRTR法（特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律） ダイオキシン特定処置法	薬品類の廃棄物処理規程	特定管理産業廃棄物管理責任者の選任 産業廃棄物・特定管理産業廃棄物のマニフェスト 管理及び報告 PCBの適正保管及び適正処分 処理業者の調査票を作成し適正業者の選定 処理施設の現地調査実施 ごみ分別の徹底・卒業時のごみ対策 退職教員への片づけマニュアル 実験系廃棄物集積所等の改修整備
<b>【防災・危険物】</b> 大規模地震対策特別措置法 消防法 [危険物の規制に関する政令]	防災防火委員会	（年1回）火災訓練時に消防設備の説明 化学物質管理に関する調査
<b>【放射性物質】</b> 放射線障害防止法	放射性障害予防規程 放射線障害防止委員会規程	講演会の実施 健康診断の実施
<b>【高圧ガス】</b> 高圧ガス保安法	特殊高圧ガス安全管理規程	ボンベ管理の強化 液体窒素貯槽利用者保安講習会の実施
<b>【実験】</b> 遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律	遺伝子組換え実験安全管理規程 遺伝子組換え実験安全管理委員会規程	封じ込め状況の確認 二種使用についての審査
<b>【安全衛生】</b> 労働基準法 労働安全衛生法	安全衛生管理規程 安全衛生委員会規程	安全衛生委員会の開催 産業医・衛生管理者の構内巡視・施設改善 アスベスト製品の撤去
<b>【毒物・劇物】</b> 毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物管理規程	化学物質管理に関する調査（毒物・劇物等） 化学物質管理システム運用による管理の推進 農薬保管状況調査・行政指導とその対応
<b>【水道施設】</b> 水道法		井水処理水50項目の水質分析（3ヶ月毎に実施） 井水処理水9項目の水質分析（1ヶ月毎に実施） 施設定期点検書の作成

## 水質汚濁防止

本学の主要キャンパスである刈谷地区の排水は、生活排水処理施設で浄化した後、河川（境川）に放流しています。放流される排水は、水質汚濁防止法や愛知県が定める水質基準により規制されており、超過しないように管理しています。また 2011 年度に中和処理施設の改修を行い、水質の記録保存等ができるようになり、環境教育に役立てることができました。2012 年度の管理状況について報告します。

### 1. 生活排水処理施設



生活排水処理施設  
(設置：昭和 50 年度)



中和処理施設  
(改修：平成 23 年度)

### 2. 排出水の成分濃度結果

規制の対象となっている化学的酸素要求量・窒素・リン排出量の結果は、表 1 と表 2 の通りです。基準値超過はありませんでした。

表 1 第 5 次水質総量規制に対する本学測定データ（平均値比較）

	排出基準 (kg/日)	本学測定データ (kg/日)
COD	10.52	1.59
窒素	10.69	4.30
リン	1.12	0.37

平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月の測定結果使用

表 2 第 5 次水質総量規制に対する本学測定データ（最大値比較）

	排出基準 (kg/日)	本学測定データ (kg/日)
COD	24.80	10.55
窒素	25.05	13.65
リン	2.59	1.86

平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月の測定結果使用

COD とは Chemical Oxygen Demand(化学的酸素要求量)の略であり、海水や河川の有機汚濁物質等による汚れの度合いを示す数値

## 大気汚染防止

本学のボイラ施設は、重油を燃料にしているため大気に硫黄酸化物や窒素酸化物といった大気汚染の原因となる物質を排出しています。排出される大気汚染物質は、大気汚染防止法や愛知県が定める環境基準により規制されており、超過しないように管理しています。2012年度の管理状況については以下のとおりです。

### 1. ボイラ施設



(設置年度：昭和 43,44,54 年度)  
※現在、2 台は休止中

### 2. 大気汚染物質の成分結果

規制の対象となっているばいじん濃度・窒素酸化物濃度・硫黄酸化物 (K 値)  
(※1)の結果は、表1の通りです。基準値超過はありませんでした。

表1 大気汚染防止法に対する本学測定データ

	排出基準	本学測定データ
ばいじん (g/N m <sup>3</sup> )	0.3	0.002
窒素酸化物 (ppm)	180×2	83 未満
硫黄酸化物 (g/N m <sup>3</sup> )	17.50	0.32

平成 24 年度冬期の測定結果使用

注) ばいじん：燃料の燃焼に伴い発生するすす等の固体粒子

K 値：煙突の高さに応じて硫黄酸化物の許容排出量を定める規制方法

ppm：(パーツ・パー・ミリオン) は、100 万分のいくらかであるかという割合を示す単位。主に濃度を表すために用いられます。

Nm<sup>3</sup>：Nはノルマル (ノーマル) と読み、0℃、1 気圧の標準状態を表すもので、主として排出ガス量等を表す場合に用いられます。

2010年度より導入された薬品管理支援システム『愛教大 TULIP』によって、教育研究現場の薬品管理を支援と管理薬品情報の一元的把握が進められてきました。2012年度は、TULIP 登録率の向上を図るため、新採用者のための研修の一環として講習会を実施しました。また、研究室ごとの事情に沿った薬品管理を支援するために、TULIP への登録方法についての相談へも対応しました。毒物及び劇物を取り扱う研究室のうち、TULIP の登録のための ID を取得した割合は約 60%、実際に活用が進んでいる割合は約 40%となりました。

また、購入・保管・使用・廃棄といった薬品管理における全ての状況を考慮した組織的な管理体制を強化するために、全学的に検討されました。当初は、薬品のもつさまざまなリスクから、新たに危機管理室の設置を想定した検討もなされましたが実現しませんでした。最終的には、薬品類の廃棄物処理管理について、委員となった自然科学系教員に依存した組織体制であった「水質汚濁防止検討委員会」を改組し、保健環境センターが指導的役割を果たす「薬品管理専門委員会」に引き継がれ、従来業務を明確化するという方針が松田学長より示されました。

1975年より38年間、愛教大の化学物質管理及び廃棄物処理管理の中心的な役割を果たしてきた「水質汚濁防止検討委員会」は廃止されましたが、環境管理、薬品管理は、大学の教育研究活動を支える基盤として、新たな体制で進めていきます。

## 化学物質取扱状況

本学では、教育・研究に使用する化学物質を適切に管理するため、毎年調査を実施しています。調査データは、労働安全衛生法、消防法、毒物及び劇物取締法、PRTR 法等によってなされる行政調査の回答にも使われています。

PRTR 法に基づく学内調査を始めて以来、2012年度初めてスチレンの年間取扱量が 100Kg を超えました。おもに、美術「彫塑」制作活動によるもので、風通りのよいピロティ等で使われていました。酢酸エチル、n-ヘキサンは2012年度取扱量は減少し、100Kg 未満となりました。

2012年度に取扱った化学物質のうち、100kg 以上のものは下記のとおりです。

単位：kg

名 称	2010年度	2011年度	2012年度	労働安全衛生法	消防法	薬物及び劇物取扱法	PRTR 法
クロロホルム	168	182	177	第一種有機溶剤 発がん性が疑われる物質 名称を通知すべき有害物	届出 (200kg)	劇物	第一種指定化学物質
スチレン	—	—	153	第二種有機溶剤 発がん性が疑われる物質 名称を通知すべき有害物	第4類アルコール類第二石油類	—	第一種指定化学物質
エタノール	—	—	134	名称を通知すべき物質	第4類アルコール類水溶性液体	—	—
メタノール	156	164	126	第二種有機溶剤 名称を通知すべき物質	第4類アルコール類水溶性液体	劇物	—

## VI - II 環境改善への取組

### 省エネ対策取組状況経緯

#### 省エネ対策取組状況経緯

2012年度、愛知教育大学では震災の影響による電力不足から、2011年度に引き続き電気使用量の削減目標を掲げました。省エネ目標値は、電気使用量対前年度比1.0%以上の削減（2010年度比5.2%以上の削減）と設定し、結果として電気使用量は0.9%の減でしたが、わずかながら目標を達成することが出来ませんでした。

主な取組は以下のとおりです。

2005年（平成17年）	夏期一斉休暇導入（8月の平日3日間） 第一共通棟講義室に昼光照度制御照明を採用し、撤去したHf型蛍光灯器具を自然科学棟に設置してある40W型器具と交換 空調設備をボイラから人感センサーを連動させた個別空調機に更新 便所をLED照明器具、節水衛生器具に更新 附属幼稚園南舎空調設備をボイラから個別空調機に更新 附属図書館（新館）空調設備を消費電力を抑えた冷温水発生機に更新
2006年（平成18年）	昼休みの消灯活動 附属図書館（旧館）空調設備を消費電力を抑えた個別空調機に更新 第二福利施設の便所をLED照明器具、節水衛生器具に更新
2007年（平成19年）	省エネポスターによる啓発活動 附属名古屋小学校に3カ所あった変電設備を1カ所に統合し、同時に鉄心改良型乾式変圧器（300KVA）に更新 養護教育二号棟の廊下照明器具をLED照明器具に更新 第二人文棟、音楽棟、養護教育一号棟、自然科学棟便所をLED照明器具、節水衛生器具に更新 附属幼稚園北舎の空調設備をボイラから個別空調機に変更
2008年（平成20年）	第一人文棟の変圧器（1φ100KVA）を鉄心改良型乾式変圧器に更新 第一人文棟、美術・技術・家政棟、保健体育棟、第二共通棟、文化系サークル棟、グラウンド便所、体育器具庫、保健環境センター便所をLED照明器具、節水衛生器具に更新 附属岡崎小学校の変圧器（1φ100KVA）を鉄心改良型乾式変圧器に更新 附属岡崎小学校の外灯をLED照明器具に更新 第二福利施設の空調設備をボイラから個別空調機に変更
2009年（平成21年）	本部、美術第一実習棟、体育館附属屋、学生合宿所、養護教育二号棟、附属岡崎小学校特別教室、附属幼稚園、附属特別支援学校小学部他の便所をLED照明器具、節水衛生器具に更新 講堂、大会館、音楽棟演奏室、国際交流会館の空調設備を消費電力を抑えた機種に変更 附属岡崎中学校の空調設備をボイラから個別空調機に変更 大学構内及び附属岡崎中学校電気室の変圧器を鉄心改良型乾式変圧器に更新 第二共通棟講義室を真空断熱ガラスに更新 人文・情報棟変電設備を第二人文棟変電設備に統合 大学構内にある油入変圧器（4,100KVA）について、鉄心改良型（アモルファス）乾式変圧器へ更新 附属図書館屋上に50KW、演習室棟及び美術・技術・家政棟に50KW（合計100KW）の太陽光発電設備を設置 講義室等の天井に空気攪拌ファンを設置 潜熱を利用し空調室外機の負荷低減を図るため保湿マットを設置
2010年（平成22年）	大学、附属高等学校及び附属岡崎中学校構内変電室にある変圧器を鉄心改良型乾式変圧器に更新 本部棟便所などにLEDランプ型ダウンライト照明器具を採用 附属岡崎小学校構内変電室にある変圧器を鉄心改良型乾式変圧器に更新 附属名古屋小学校の空調設備をボイラから個別空調機に変更 構内給水設備を統合し、節電に努めた 構内暖房用ボイラの「省エネ」運転を実施
2011年（平成23年）	緊急節電対策を実施 学生寮F棟新営工事に伴う省エネ対策（ペアガラス・外断熱・LED照明・高効率給湯器の導入） 大学構内の地下水浄化設備導入 構内暖房用ボイラ施設の稼働日数を見直し、重油の使用量を削減 学生寮ボイラ施設を廃止し、重油の使用量を削減 第一福利施設「冷温水発生機」を省エネ機器に更新 大会館・第一体育館・第二体育館の一部照明をLED照明に取替 美術・技術・家政棟屋上に遮熱塗料（酸化チタン）の塗布 附属名古屋中学校普通教室・管理棟屋上に遮熱塗料（酸化チタン）の塗布 附属名古屋小学校校舎（帰国子女棟）屋上に遮熱塗料（酸化チタン）の塗布
2012年（平成24年）	附属名古屋中学校管理棟改修工事に伴う省エネ対策（ペアガラス・LED照明・節水衛生器具に更新、居室換気ナイトパーズを取り入れ空調設備の負荷を低減） 学生寮A・D棟改修工事に伴う省エネ対策（ペアガラス・外断熱・LED照明・高効率給湯器の導入） 第一福利施設改修工事に伴う省エネ対策（ペアガラス・LED照明・CO2センサーによる換気設備を導入し、空調設備の負荷を低減） 構内暖房用ボイラの「省エネ」運転を実施し、重油の使用量を削減

## 国内クレジット制度への参加

国内クレジット制度（国内排出削減量認証制度）とは、京都議定書目標達成計画に位置づけられた政府全体の温室ガス削減の取り組みです。国際的に約束した日本の削減目標の一部に組み込まれています。

本学では、太陽光発電設備の導入（方法論 008）、変圧器の更新（方法論 101）の申請を行い、2011年3月認証委員会にて計画承認されました。認証期間は3年間あり、昨年度に引き続き2012年度は2回目の実績報告書の審査受け承認され2013年4月に売却が成立しました。



承認書



認証書

年度	認証を受けたクレジット量	クレジット対象期間
2011年度	105 t-CO <sub>2</sub>	2010.04.01 ~ 2011.03.31
2012年度	89 t-CO <sub>2</sub>	2011.04.01 ~ 2012.03.31

## 省資源・省エネルギー対策

2011年8月より地下水浄化設備が稼働し、給水の9割以上を地下水でまかっています。地下水浄化設備は、いくつかの処理行程を経て、飲料水として既存の受水槽へ投入しています。地下水の利用は、大学構内の資源を有効利用するだけでなく、大幅な経費削減、余剰水による花壇への散水・観賞池の浄化が可能となりました。また、併設して自家発電設備を設置したことにより、災害時の飲料水確保が可能となりました。

なお、2012年度の経費削減額は、市水換算で8,444千円の削減効果がありました。



地下水浄化設備

## 東日本大震災発生以降の節電対策

### 省エネニュース

省エネに関する豆知識や本学における CO<sub>2</sub> 排出量の現況などを記載した省エネニュースを毎月 1 回作成し、教職員・学生が必ず目にするトイレに掲示しました。



### 省エネポスター

省エネを呼びかけるポスターの学内コンテストを実施し、受賞作品は、学内の掲示板等に掲載され、構成員の省エネ啓発に役立てられました。

#### ◇ 夏季の省エネポスター



授賞式



応募作品 (15 作品)



最優秀賞



優秀賞

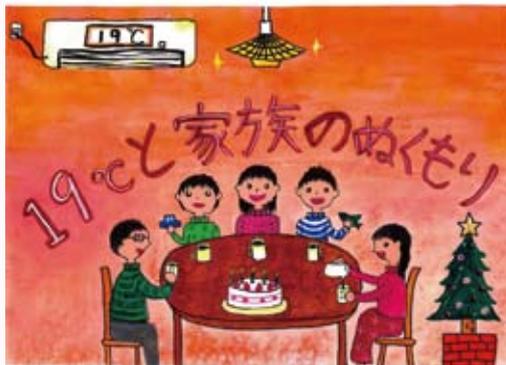
◇ 冬季の省エネポスター



授賞式



応募作品 (20 作品)



最優秀賞



優秀賞



優秀賞



優秀賞

## 「大学低炭素化への道」を考える特別講演会

東日本大震災以降、資源・エネルギー・廃棄物の問題は、喫緊の対応、厳しい選択が迫られています。環境研究と環境教育の融合によるエコキャンパスづくりプロジェクト事業（略称「エコキャンパスづくりプロジェクト」）では、大学の活動自体が地球や地域の環境に与えている負荷と持続可能な社会づくりについて構成員みんなで考えるために特別講演会を開催しました（2013年1月23日）。講演会は、松田正久学長から愛知教育大学憲章の理念に基づく本プロジェクトへの期待が込められた挨拶で始まり、第1部では、京都大学環境科学センター酒井伸一教授をお迎えして、『大学低炭素化への道～環境報告書ベンチマーク研究からの展望～』をご講演いただきました。酒井先生からは、大学等高等教育機関の持続可能性への挑戦は、世界の課題の一つとされていること、及び比較や検証のためには大学の類型や性格に注意が必要であることについて、国内外の環境情報の分析結果をもとに明確に示していただきました。環境報告書ベンチマーキングと環境管理システムにおける研究成果、国内外の教育機関の環境ランキングにあわせて、京都大学における環境賦課金システムの導入、木質ペレット・ソーラー方式による空調システムの導入と検証はとても興味深いもので、アンケートでも参加者の関心の高さが示されました。第2部は、本学三宅明保健環境センター長より、展開中であるエコキャンパスづくりプロジェクトの概要が説明されました。参加者は、約120名（学生100名）で、授業、AUEニュース、HPで報告されました。講演会参加者へのアンケートでは、8割以上の参加者が有意義だったと答えていました。

詳細は <http://www.eco-campus.aichi-edu.ac.jp/kouenkai/kouen-2012.html>



## PCB 廃棄物の管理・処理状況

愛知教育大学は平成24年度末現在、蛍光灯安定器類3,807台を保管しており、微量PCB絶縁油含有高圧変圧器7台および高圧開閉器1台を使用しております。

高濃度PCB廃棄物の高圧コンデンサーについては平成21年11月にJESCO豊田事業所にて処分いたしました。

蛍光灯安定器類については引き続き保管。微量PCB絶縁油含有高圧変圧器および高圧開閉器については、平成25年6月現在全国で処理認定業者が3社ほどありますが、愛知・岐阜県には認定業者がないので、引き続き使用しています。今後、愛知・岐阜県の認定業者が受け入れ可能になれば、使用を中止します。

### PCB 廃棄物処理に関する主な経緯

- 2001年（平成13年） PCB含有蛍光灯安定器撤去完了  
PCB廃棄物保管庫設置（学生寮ボイラ室）
- 2003年（平成15年） 微量PCB調査
- 2009年（平成21年） 高濃度PCB廃棄物（コンデンサー類）処分
- 2010年（平成22年） 微量PCB使用機器保管庫設置（人文・情報棟）



蛍光灯安定器保管状況（学生寮ボイラ室）

## 環境情報開示・環境コミュニケーションの状況

### 環境ミーティングの開催

環境問題及び環境への取組について、学生と教職員等とが広く意見交換を行う場が、環境ミーティングです。毎年開催し、大学の環境目標・計画や環境報告書及び学生主体の環境活動について意見交換を行います。2012年度は、日頃から自主的な環境活動に取り組んでくれている学生から学内クリーン活動の報告や課題が示された。また、「省エネへの取組」、「構内全面禁煙」等についての現状と今後の課題等についても話し合いました。



第一回 環境ミーティング開催風景  
(2012年6月19日)

### 環境報告書ダイジェスト版の発行

新入生及び学生全員に環境問題への理解を深めてもらうため、環境報告書ダイジェスト版を作成し配布しました。ダイジェスト版2012は、新入生に興味を持って読んでもらうようにリーフレット方式を採用し内容をコンパクトに編集し身近な存在としました。またダイジェスト版のコーナーをカードサイズの切り取り方式にして、学内のごみ出しルールをいつでも確認できる工夫をしました。



環境報告書 2012 ダイジェスト版

## 生協店舗・食堂でのエコライフ提案

愛知教育大学生生活協同組合  
専務理事 今井 靖雄

生協の食堂や店舗は、毎日のように学生の皆さんに利用いただいています。生協は商品活動を通じてエコライフの提案をしていきたいと考えています。2012年度に実施した生協の取り組みの一部をご紹介します。

組合員の皆さんに気軽に参加してもらえる日常の活動について

生協では、ごみの削減対策としてコンビニで販売するテイクアウト丼はP&Pリサイクルを採用しています。P&Pリサイクルとは、使用済み容器「ミンミリ・リパック」を回収し同じ容器として再生・再資源化するシステムです。リサイクル容器使用による環境負荷の低減効果を期待するには約80%の回収率が必要です。愛教大では東海地区の大学生協の中では2番目の回収率ですが、回収率18.04%とまだその基準には大きな開きがあるのが現状です。これからも広く利用者のご協力を頂きながら回収率を上げていきたいと考えています。2012年度は学生委員会が中心となり、使用済み容器の回収箱を第一共通棟に設置し、回収率を上げる取り組みをすすめています。他にも店舗ではレジ袋を削減するために、レジ袋を有料(1枚5円)として、マイバックの利用を呼び掛けています。また、日常的に学内で利用されている飲料容器についても自動販売機メーカーと協力して、リサイクルを行っています。

生協では学生さんには毎日の生活の中であまり無理をしない範囲で気軽に取り組める環境活動について今後も提案していきたいと思えます。

また、2013年3月に第一福利施設耐震工事が終了し、建物全体が省エネを強く意識された建物に生まれ変わりました。新たに設置された設備を活かして学内の省エネに貢献できればと思います。また、空調や照明の利用についても、学生さんの利用が無い時間帯などはできるだけ使用しないよう運用面でも気を付けたいと思います。

# VII 活動紹介

## VII - I 環境活動

### 学生・教職員が一体となって実施した環境活動

#### キャンパスクリーンデーの実施

##### 1. 目的・主旨

教職員学生ひとりひとりの学内美化に対する意識の高揚と、本学の教育・研究の場にふさわしいキャンパスづくりのため、また大学見学説明会（7月27日28日）に美しい環境を提供するため「キャンパスクリーンデー」を実施しました。

##### 2. 実施内容

- |           |                             |                           |      |
|-----------|-----------------------------|---------------------------|------|
| (1) 日時    | 2012年7月18日（水） 15時30分～16時30分 |                           |      |
| (2) 参加者   | 約1,040名                     |                           |      |
| (3) 実施場所  | 本学構内                        |                           |      |
| (4) ごみ収集量 | 一般ごみ                        | 90ℓ                       | 131袋 |
|           | 不燃ごみ                        | 90ℓ                       | 135袋 |
|           | 草・落葉・枯木                     | 90ℓ                       | 63袋  |
|           | 粗大ごみ                        | コンテナ（8m <sup>3</sup> ） 1車 |      |

学生への周知が充分であったこともあり、数多くの参加者がありました。また当日は放置自転車の回収も同時に行いました。



ごみ回収作業



草刈り作業



放置自転車の回収作業

## 🌍 花プロジェクト

2012年度の「花プロジェクト」は前年度から引き続き「花の植え替え」と「花壇整備」を行いました。今年度の花プロジェクトも学生や職員をはじめ、大学をより良くしたいと考える方が集まり交流を深めました。活動内容としては、5月に約1,000株、11月に約1,000株花の植え替えを行い、新たに第二福利施設、障害児教育棟、美術第一実習棟前築山等、花壇整備を行いました。第二福利施設では菜の花の種を蒔き、2度の間引き作業を行った結果、3月中旬には満開の花を咲かせました。一昨年度植栽した2,000株以上の芝桜が一層大きくなり、第一福利施設から大学会館前の車道側面をピンク色に染め、見る人を驚かせました。



## 🌸 花整備報告

### 現在の整備状況一覧表

場 所	植栽本数	整備年度	春～夏	秋～冬
ロータリー北側坂道	240	2012.2	イパ°チェス	ビ°オ
バス停北側斜面	300	2012.1	イパ°チェス	ビ°オ
大学会館前	2,070	2012.3	芝桜	
第二福利施設花壇	170	2011.7	マリ°ゴ°ルト°	ビ°オ
保健環境センター	100	2012.1	ハ°チュニア他	デ°ジ°-他
本部棟	80	2011.7	ホ°チュラカ	ジュリアン
第一福利施設	100	2012.3	芝桜	
第二福利施設南側	約20,000	2012.10	—	菜の花
障害児教育棟	100	2012.5	ニチニチソウ他	ストック他
美術第一実習棟前築山	200	2013.1	芝桜	
ボイラー室東側	20	2012.11	—	ハボタン

## 卒業時のごみ対策

3月は、卒業生が社会に巣立つ季節ですが、他方では巣立に伴って多量のごみが出る季節でもあります。例年卒業時にあわせて保健環境センターが中心となり「卒業時のごみ対策」を行っています。

2012年度は、例年同様ポスター掲示などに加え廃棄物Q&Aを作成し広報活動を行い、周知のための努力を行いました。その結果、保健環境センターに寄せられる苦情はほとんどなくなり、全学で取り組んだ成果が現れていると考えています。



廃棄物Q&Aの一部

## エコ・キャンパスライドシステム

エコ・キャンパスライドシステムとは、学内に放置された自転車のうち、使用が可能なものについて整備し貸出用自転車として再利用するものです。毎年200台を超える自転車が学内に放置されており、これらを7月のキャンパスクリーンディに併せて、回収し部品の流用等により利用可能な自転車として整備を行っています。ちなみに2012年度は、新たに10台の自転車が利用可能となりました。

このように、毎年多くの放置自転車が整理・再利用されるようになり本システムは、学内の環境配慮活動の一端を担う取り組みとなっています。

また本システムは、学生支援活動というもう一つの目的をもって運用が開始されたもので、2012年度末現在短期貸出用20台、長期貸出用50台、合計70台の自転車を貸出管理しています。

また本システムの運用と併せて、数年前から放置自転車の減に向けた取り組みとして、卒業時に不要自転車の回収を呼びかけていますが、大きな効果が得られてないのが現状です。より多くの卒業生の協力が得られるよう、啓発活動の充実が必要であると感じています。



整備された貸出用自転車

## Ⅶ - Ⅱ 社会貢献活動

### 社会貢献活動

#### 教育復興支援学生ボランティア活動

東日本大震災の被災地の教育復興支援を行うため、昨年度に引き続き 2012 年度は学生ボランティアの派遣を 4 回行い、宮城県内の小、中学校の児童生徒に対する自学自習支援、部活動支援、教育環境整備などを行いました。

自学自習の支援では、児童生徒がそれぞれ持ち込んだ問題集や参考資料での自習を支援。本学学生は席を回って、質問に答える形で指導し、冗談を言い合うなど、打ち解けた雰囲気の中で「自学自習支援」を進めていました。

教員補助では、部活動支援、全校集会への参加、授業補助（英語、数学、国語など）、部活動参加、机の解体作業、下駄箱の清掃その他の業務を行いました。大変ではありましたが、学生たちにとっては、ボランティアを体感できるものでした。

また、壊滅的な被害を受けた被災地域の現状視察、避難所での昼食体験、現地の先生方からの被災当日の体験談を聞くなど、普通のボランティア活動では経験できないことが体験できました。

ボランティアに参加した学生らは、一様に「行って良かった。教員志望の人にはぜひ、ボランティアに行ってもらいたい」と言葉を揃え、「映像で見ると、実際に現地で体感するのとでは全然違っていた」「地震が怖いというだけでなく、普通の生活や命のありがたさを伝えられる」「この場所で見ただけで、感じたことをまわりの人に伝えることが大事」とボランティア参加で教員として将来に向けての決意と自身を深めたようです。

本学では引き続き東日本大震災の教育復興支援学生ボランティアの派遣を続けていく予定です。

#### 2012 年度 教育復興支援学生ボランティア活動一覧

	活動期間	活動場所	人数	活動内容
第 1 陣	7/23 ~ 7/27	宮城県小・中学校	3 名	夏季休業期間中の自学自習支援
第 2 陣	8/ 6 ~ 8/10	宮城県中学校	17 名	夏季休業期間中の自学自習支援
第 3 陣	8/20 ~ 8/24	宮城県中学校	15 名	夏季休業期間中の自学自習支援、部活動支援、教育環境整備
第 4 陣	3/25 ~ 3/29	宮城県中学校	9 名	夏季休業期間中の自学自習支援、部活動支援、教育環境整備



## 地域への貢献活動

刈谷駅前を彩る「アクアモールイルミネーション」を今年も本学美術科1年の有志の学生たちが制作。11月24日午後5時から、同駅前商店街アクアモールで点灯式が行われました。本学の学生たちが同商店街と協力してイルミネーションの作成を手がけたのは今年が6年目で、36人が参加。今年のテーマは「サーカス」。学生たちは夏休み前から計画し、テーマや構造を考えて10月から制作を開始。美術教育の宇納一公教授のアドバイスを受けながら、象の曲芸、ライオンの火の輪くぐりなど約20種類のイルミネーションを完成させました。今回は通りの所々に彫刻作品を配置して、彫刻とイルミネーションのコラボが見どころでした。



## 子どもまつりを開催

43回を数えた子どもまつりを5月13日に、開催しました。学生が主催してさまざまな体験型企画を準備し、地域の小学生らを招いて、楽しく触れ合うもので、1100人余の子どもが参加し、構内は終日、子どもの笑顔、歓声に包まれました。学生の多くが教員を目指す大学ならではの伝統行事の一つで、学生も普段接する機会がない子どもたちとの会話を弾ませ、子どもの素早い反応を楽しんでいました。五月晴れのこの日、受付開始前から子どもたちの行列ができ、開会式では学生が注意事項などを説明し、元気にあいさつ。遊びが待ちきれない子どもたちは式が終わると同時にイベント会場へ向かって走り出しました。会場の教室等では、学生たちが子どもまつりのために考えた迷路ゲームやお化け屋敷、人形劇等子どもたちにとっては楽しい企画ばかり。人気コーナーには行列ができ、子どもたちは目を輝かせて学生の説明に聞き入る姿が見られました。また、親子でお弁当を広げて屋外の芝生広場などで昼食、ピクニック気分を満喫。子どもたちは元気いっぱい走り回り、汗ばむ陽気の中、休日の1日を心ゆくまで楽しんでいました。



## Ⅶ - Ⅲ その他社会的取組

### その他社会的取組

#### 労働安全衛生

教職員が、安全で健康に働ける職場作りは、充実した教育・研究活動の基礎です。本学は、教職員、学生・生徒等、全ての大学構成員にとって快適安全健康な大学づくりを目指して、労働安全衛生アクションプラン（2010～2013年度）を定めています。このプランにより、衛生管理者養成、係長教育、パソコン作業、長時間勤務、健診事後措置、化学物質管理、喫煙、学生教育、メンタルヘルス、職場巡視、学校環境衛生基準、労働災害率に関する改善や対策を進めています。

本学における労働災害発生状況の推移は表のとおりで、2012年度の労働災害は、休業災害0、不休災害5人で、労働災害度数率は3.79、強度率は0でした。2012年度の全産業の度数率（不休災害も含む）は5.00、強度率は0.10で、本学は、度数率、強度率ともに全産業より低値でした。災害発生時は、原因を調べ、再発予防措置を講じています。

表. 労働災害発生状況

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
休業災害（人）	1	1	0	1	0	1	0
不休災害（人）	6	4	3	7	6	2	5
災害合計（人）	7	5	3	8	6	3	5
労働災害度数率*	5.39	3.85	2.30	6.21	4.76	2.32	3.79
労働災害強度率**	0.038	0.0015	0	0.0016	0	0.0046	0

(注) \*は百万延べ労働時間当りの労災人数。

\*\*は千延べ労働時間当りの労災休業延べ日数。

## 人権及び雇用

ハラスメント規程を定め、人権侵害に関する相談窓口を設けて、担当者が相談を受けています。2012年度の相談は14件で、ハラスメント防止委員会での審議は5件であり、処分に至った例はありませんでした。

障害者の雇用は常勤4名、非常勤4名で、能力を活かした就労ができるように積極的に進めています。

## 環境関連以外の情報開示及び社会的コミュニケーション

本学は、環境関連以外の情報も、ホームページや大学の出版物等を通じて積極的に開示し、社会的コミュニケーションを進めるようにしています。ホームページには、「学校教育支援データベース」や地域連携活動を公表しています。地域連携については本学では、教育創造開発機構内に地域連携センターを設けています。

地域連携センターが作成した「学校教育支援データベース」は、幼稚園、保育園、小・中・高校、特別支援学校等に対して、本学教員が支援できる専門領域、対象校種・教科等を公開しています。また、生涯学習・文化・地域課題支援、情報発信・住民サービス支援、国際交流支援に関する地域連携事業として、2012年度には計29件が実施されました。

2012年度における法人文書の情報開示請求はありませんでした。

## 個人情報保護

法規に則り、学生、教職員、その他の大学関係者の個人情報を保護しています。

# VIII 環境報告ガイドラインとの対照表

## ガイドライン対照表

環境省 環境報告ガイドライン(2012年度版)による項目	愛知教育大学環境報告書2013における対象項目	該当ページ
<b>【1】環境報告書の基本的事項</b>		
1. 報告にあたっての基本的要件		
(1) 対象組織の範囲・対象期間	・ 報告対象期間、報告対象範囲	03
(2) 対象範囲の捕捉率と対象期間の差異		
(3) 報告方針		
(4) 公表媒体の方針等		
2. 経営責任者の緒言	・ 学長メッセージ 『更なるエキサイトな創造に向けて 一今、立ち止まって考えること』	02
3. 環境報告の概要		
(1) 環境配慮経営等の概要	・ 大学の概要	04
(2) KPIの時系列一覧	・ 該当事項無し	
(3) 個別の環境課題に関する対応総括	・ 環境目標・計画	07
4. マテリアルバランス	・ マテリアルバランス	13
<b>【2】「環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況」を表す情報・指標</b>		
1. 環境配慮の方針、ビジョン及び事業戦略等		
(1) 環境配慮の方針	・ 愛知教育大学憲章 ・ 学長メッセージ	05
(2) 重要な課題、ビジョン及び事業戦略等	『更なるエキサイトな創造に向けて 一今、立ち止まって考えること』 ・ 環境目標・計画	02 07
2. 組織体制及びガバナンスの状況		
(1) 環境配慮経営の組織体制等	・ 環境管理組織	06
(2) 環境リスクマネジメント体制		
(3) 環境に関する規制等の遵守状況		21
3. ステークホルダーへの対応の状況		
(1) ステークホルダーへの対応の状況	・ 環境情報開示・環境コミュニケーションの状況	30
(2) 環境に関する社会貢献活動	・ 社会貢献活動状況	34
4. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況		
(1) バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針、戦略等	・ 該当事項無し	
(2) グリーン購入・調達	・ グリーン調達	19
(3) 環境負荷低減に資する製品・サービス等	・ 環境にかかわる教育・研究	08
(4) 環境関連の新技術・研究開発	・ 環境にかかわる教育・研究	
(5) 環境に配慮した輸送	・ 該当事項無し	
(6) 環境に配慮した資源・不動産開発／投資等	・ 該当事項無し	
(7) 環境に配慮した廃棄物処理／リサイクル	・ ごみ排出量	17
<b>【3】「事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組に関する状況」を表す情報・指標</b>		
1. 資源・エネルギーの投入状況		
(1) 総エネルギーの投入量及びその低減対策	・ 総エネルギー投入量及びその低減対策	15
(2) 総物質投入量及びその低減対策	・ グリーン調達	19
(3) 水資源投入量及びその低減対策	・ 水資源投入量及びその低減対策	16
2. 資源等の循環的利用状況(事業エリア内)	・ 該当事項無し	
3. 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況		
(1) 総製品生産量又は総商品販売量等	・ 該当事項無し	
(2) 温室ガスの排出量及びその低減対策	・ 温室効果ガス排出量	14
(3) 総排出量及びその低減対策	・ 水質汚濁防止	22
(4) 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	・ 大気汚染防止	23
(5) 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	・ 化学物質安全管理、化学物質取扱状況	24
(6) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	・ ごみ排出量	17
(7) 有害物質等の漏出量及びその防止対策	・ ごみ排出量	17
4. 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	・ 該当事項無し	
<b>【4】「環境配慮経営の経済・社会的側面に関する状況」を表す情報・指標</b>		
1. 環境配慮経営の経済的側面に関する状況		
(1) 事業者における経済的側面の状況	・ 環境会計情報	20
(2) 社会における経済的側面の状況	・ 該当事項無し	
2. 環境配慮経営の社会的側面に関する状況	・ 該当事項無し	
<b>【5】その他の記載事項等【第8章】</b>		
1. 後発事象等	・ 該当事項無し	
2. 環境情報の第三者審査等	・ 該当事項無し	

# Ⅸ 環境報告書の評価

## 内部評価意見

今年の夏は、猛暑・渇水で多勢の方々が熱中症の被害に遭われる一方、大雨・洪水、さらには強烈な竜巻の発生など、自然の脅威をまざまざと見せつけられた。

地球温暖化の進展がこれらの自然災害の原因の1つであると指摘する声も少なくなく、CO<sub>2</sub>などの大気汚染物質の排出削減やあらゆる場面での省エネルギー対策がまさに「焦眉の急」となっている。

財政問題と同様、未来への負の遺産をこれ以上増やすような事は決してあってはならない。そういう中で愛知教育大学の環境への取組みは、年々充実・強化され、大きな成果が上がっていることを評価出来る。

- (1) 具体的には、安全で快適な環境を保全するため、大気・水・ゴミ・有害物質などの環境負荷物質の削減が国等の基準を大幅に超過して達成されてきている。
- (2) また、電気・ガス・重油・水などの総エネルギー投入量も年々少なくなっており、温室効果ガスの削減が強く意識されている。
- (3) これらの成果を得るためには、多額の環境投資も必要となり、環境保全コストも2010年から年間20%程度上昇し、大きな負担となっているが、これは苦しい財政の中での環境保全への前向きな取組みの表れとして評価したい。
- (4) 一方、本学は環境重視型大学として、教職員・学生が一体となって環境活動を展開しており、2011年からは「エコキャンパスづくりプロジェクト」と銘打って活動を具体化させている。社会貢献活動と相俟って教育大学に相応しい活動により成果を上げている。

以上のように評価する一方、よりよい環境活動の一助になればと考え、以下の2点を指摘しておきたい。

- (1) 温室効果ガスの中で最も影響の大きいCO<sub>2</sub>削減について、これまで着実に削減してきたことでハードルが高くなっていることに加え、電力使用量の削減が難しいことから、もう一度、態勢を立て直して取り組んでもらいたい。  
本学の環境活動は、構成員が一体となって、全学を挙げてきめ細かく取り組むのが特徴である。今後はこれらのソフト面での活動をさらに具体的な実施事項にブレークダウンして展開していく事が重要であろう。
- (2) 他の環境負荷物質については、本報告書では実績と活動の状況が述べられているものの、残された問題の抽出整理、原因の追求、対策の立案というP.D.C.Aが廻っているとは必ずしも言い難い。是非、検討していただきたい。

最後に、愛知教育大学の環境保全活動が、大学の行う事業活動そのものであると認識され、社会貢献活動も含めて広汎に展開されている事を評価し、内部評価意見とする。

以上



監事 澤崎 忠昭  
前トヨタ紡織株式会社専務取締役  
2010年4月より現職



監事 村上 文男  
弁護士  
2012年4月より現職

# X 編集後記

## 「クールビズ」 のもう一つの意味

総務担当理事 折出 健二



本稿を書いている6月の中旬、名古屋圏は日中気温が30℃という「夏日」が連日続いております。今からこの暑さでは7月、8月は体温並みになるのでは、と気が重くなります。

これは、まさに地球温暖化現象の一環です。「地球温暖化」というのは、皆様もよくご存じの通り、二酸化炭素などの排気ガスによって温室効果ガスと呼ばれる大気層が地球表面を覆い、放射熱が停滞して、その結果気温の上昇が見られる現象を指します。

大量消費と欲望の肥大化などを背景に、各国の工業生産が進み、燃料も石油のみならず天然ガスの開発で多角化して、このままではますます地球社会の温室効果ガス量は増えていくばかりです。

ではどうするか？ 私たちがまず賢くなるほかないでしょう。その意味では、先日逝去された精神科医、なだ・いなだ氏が言ったという「日本は、政治家が言う『強い国』ではなく『賢い国』になるべきだ」（『毎日新聞』2013年6月17日付夕刊）というのには至言です。

私たちがすこしでも温室効果ガスを減らす努力をすることには意味があります。特に大学を含めて各公共機関においては、それぞれのコミュニティがこぞってCO<sub>2</sub>削減に取り組むことで、少しでも地球温暖化を食い止めることにはつながっていきます。本学におきましても、財務部を中心に年度計画を立ててこの課題に挑んでおります。「平成24年度実績報告書」原案の該当箇所を参照しつつ、前年度からの主な取組を記しておきます。

一つには、省エネ目標値（CO<sub>2</sub>排出量：前年度比1%以上削減）を設定し、取組を行った結果、本白書の16頁に示すような結果に至りました。元のままの係数で見ると、対2011年度比△1.8%となります。

二つめに、資源リサイクルについては、不燃物（金属）や紙ゴミ（雑紙）の廃棄物を資源ゴミとして資源リサイクル業者に委託・処理したことで、年間処分経費の節減につながりました。

三つめに、学内及び附属学校、さらには第一福利施設の改修工事に際して、例えば便所改修では節水効果の高い器具に取り替えたり、太陽光発電設備、LED照明等を設置したりしました。

こうした全学的な取組によって、温室効果ガス排出量並びにエネルギー使用量のトータルで見ると、省エネ環境に貢献できる実績をあげております。

財務部をはじめとするこうした地道な取組を通じて達成できた成果の中から、ある《意味》が立ち上がってきます。

「クールビズ」とは、暑さをしのぐスタイルで仕事をする省エネ行動様式のことですが、もう一つの意味がそこに読み取れます。温室効果ガス削減等のためにいろいろの知恵を働かせていく。地道な自前のこの生き方は「クールだ」、つまり「すてきだ」「かっこよい」。「クールな」とは、本来は、環境問題に対する一人ひとりのこうした生き方のことではないかということです。

そうだとすれば、それは一年を通じて進めることが必要です。これは、もう全学の構成員一人ひとりが知恵を働かせて、省エネを徹底するしかありません。その行動、理知の働きこそ、本学の環境保全の原動力です。



国立大学法人 愛知教育大学  
〒448-8542  
愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1  
<http://www.aichi-edu.ac.jp>  
保健環境センター・財務部施設課  
TEL : 0566-26-2152 (施設課)  
E-mail : [kankyo-h@m.auecc.aichi-edu.ac.jp](mailto:kankyo-h@m.auecc.aichi-edu.ac.jp)